

ヒルシュスプルング病およびヒルシュスプルング病類縁疾患の 病理診断標準化に関する研究

1. 研究の対象

1970 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 16 日までの期間で、当センターにおいて、新生児から 10 歳未満の年齢で、病気によってお亡くなりになられ、解剖を受けた方の腸管、またはこれまでに手術で摘出された腸管が対象となります。ただし、生前の排便状況に問題が無かった方に限ります。

研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、事務局までご連絡ください。

2. 研究の目的・方法

ヒルシュスプルング病およびヒルシュスプルング病類縁疾患は、腸が正常に動くために必要な神経細胞がなかったり、数が少なかったり、神経細胞自身に異常があったりする病気です。これにより、腸が物理的に閉塞していないにもかかわらず、お腹が張る、嘔吐が続く、自力で便やおならがでないといった腸管の通過障害の症状を呈します。

この 2 つの疾患の診断には、臨床所見と病理所見の両方が必要であり、病理診断を行う上では、正常な神経細胞の数や大きさなどの評価基準が必要です。

しかし、正常な神経細胞についての報告はほとんど無く、ヒルシュスプルング病およびヒルシュスプルング病類縁疾患の診断において、神経細胞の大きさや数について明確に数値化された基準はありません。

そのため、この研究では、九州大学大学院形態機能病理学との共同で、免疫染色という方法を用いて、正常な腸管の神経細胞の大きさや数を数値化し、客観的な病理診断基準を作成することを目的としています。

この研究を行う際は、カルテより以下の情報を取得します。また、保管されている臓器を用いて、免疫染色という方法で腸管の神経細胞の大きさや数を測定します。測定結果と取得した情報の関係性を分析し、ヒルシュスプルング病およびヒルシュスプルング病類縁疾患の診断基準の作成に役立てます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

〔試料〕

大阪市立総合医療センター病理診断科にて保管されている臓器（腸管：2×2cm 大、6 カ所より採取します）

〔取得する情報〕

年齢、性別、身長、体重、在胎週数

生前の排便状況、原疾患、消化器疾患の既往の有無、死因など

この研究が許可されている期間は、令和 3 年 3 月 31 日までです。

4. 外部への試料・情報の提供

九州大学大学院形態機能病理学へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

研究実施場所 (分野名等)	九州大学大学院医学研究院形態機能病理学 九州大学病院病理診断科
研究責任者	九州大学大学院医学研究院形態機能病理学 教授 小田 義直
研究分担者	九州大学大学院医学研究院形態機能病理学 准教授 孝橋 賢一 九州大学病院小児外科 医員 玉城 昭彦 九州大学病院病理診断科 医員 木下 伊寿美 九州大学大学院医学研究院小児外科学分野 講師 吉丸 耕一朗 九州大学病院小児外科 医員 渋井 勇一
共同研究施設 及び 試料・情報の 提供のみ行う 施設	施設名 / 研究責任者の職名・氏名 役割 ①埼玉県立小児医療センター 試料および 病理診断科 / 部長 中澤温子先生 情報の提供 ②国立成育医療研究センター 病理診断部 / 統括部長 義岡孝子先生 ③神奈川県立こども医療センター 病理診断科 / 部長 田中祐吉先生 ④静岡県立こども病院 病理診断科 / 部長 岩淵英人先生 ⑤大阪母子医療センター 病理診断科 / 部長 竹内真先生 ⑥大阪市立総合医療センター 病理診断科 / 部長 井上健先生 ⑦兵庫県立こども病院 病理診断科 / 部長 吉田牧子先生 ⑧沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 病理診断科 / 部長 仲里巖先生

6. お問い合わせ先

この研究に関してご質問がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

事務局 地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
(研究責任者) 病理診断科 井上 健
連絡先：
〔TEL〕 06-6929-1221 (代表)
〔住所〕 〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22

研究代表者 九州大学大学院医学研究院形態機能病理学 教授 小田 義直